

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
3 【そなえる】	⑳【学校・家庭・地域での日頃の備え】 避難場所や避難方法、避難経路を把握して、安全に避難する。家具の安全対策、避難の方法や落ち合う場所、非常持ち出し品、放射線についての正しい理解など、学校や家庭でできる防災対策を行う。地域の防災システムを理解し、防災活動に参加する。	教科(総合・社会・保健体育)

【題材】

クロスロード（防災カードゲーム）、避難訓練、着衣水泳を通して、学校・家庭・地域が一体となって、防災に備える活動。

【対象】

全校生徒

【実践の概要・詳細】

実践の詳細

[クロスロード（防災カードゲーム）]

クロスロードゲームとは、カードを用いたゲーム形式による防災教育教材のことである。カードの設問に対して各自がYesかNoで自分の意見を示し、なぜそのような選択をしたのか、理由を説明するものである。

例 大きな地震のため、避難所（小学校体育館）に避難しなければならない。しかし、家族同然の飼い犬“もも”（ゴールデンリトリバー、メス3歳）がいる。一緒に避難所に連れて行く？

Yes(連れて行く) OR No(置いていく)

[避難訓練]

通常の避難訓練の他に、消火器と消防用ホースによる消火体験、避難救助袋による避難体験、煙体験、要救護者の救助方法などを行った。

それぞれの活動後に、沼宮内消防署の職員の方から注意しなければならないことや日常の備えなどのお話をいただいた。

[着衣水泳]

保健体育の水泳の授業で「着衣水泳」を行った。普段着の状態ですぐ川や湖に落ちた場合、どれくらいの負荷が生じるのか、また、そのような事態が発生した場合には、どのように対応すればよいのか、それぞれの立場で体験を通して学習した。



【授業の展開】

授業の展開（クロスロードゲーム）

[1・2年生（総合）]

岩手県立大学の伊藤英之准教授と学生に協力していただき、授業を行った。

[3年生（社会）]

本校教諭鎌田が3年生の授業参観で実施。保護者も一緒に授業に参加した。

[授業の流れ]

初めに、クロスロードゲームの内容とこのゲームが生まれたきっかけを説明。その後、簡単な例題を出し、全員でYesかNoを決めて数人に理由を話させた。ゲームのやり方を確認した後に、班ごとにカードを配布し、学生（班長）がファシリテーターとなり、どうしてそのような選択をしたのか、説明させていった。

最後に、実際はどうだったのか、伊藤先生から説明をうけた。「災害に正解はない。しいて言えば、生き残った人が正解」という言葉は印象に残った。

本校教諭が行った授業では、非常時の持ち出し品や家族の避難経路、落ち合う場所の確認など家庭でできる防災対策にも触れた。



児童生徒の感想

- ・どれも難しい問題で迷いました。いろんな人の意見が聞けて勉強になりました。
- ・いざというときはパニックになると思うので、あらかじめ家族で考えておくことはとても大事なことだと思いました。被害を最小限にする努力をしたいと思います。
- ・いつ災害が起こるか分からないので、非常食を準備しておきたいと思いました。

まとめ

- ・阪神淡路大震災の事例をもとに作成したカードなので、生徒は本気で考えることができた。
- ・一方向からの見方だけでなく、多面的に見ることの重要性に気づく生徒が増えた。
- ・自分だけでなく、相手のことを考えて行動することが必要だと感じた生徒が多かった。
- ・普段、発言の少ない生徒の意見も聞くことができた。
- ・「災害が起こってから考えては遅い。準備は事前に！」という意識を持つことができた。

保護者・地域の感想

- ・大人でもとても迷いました。我が家では、非常時の準備をしていなかったの、非常持ち出し袋を準備したいと思います。楽しみながら大事なことを考えることができました。
- ・「川口は災害のない地域」と思っていたし、そう思っている人は多い。でも、いつ、どこで起こるか分からないので、準備は必要と感じた。